

第34回

トルコ革命とパレスティナ分割

監修・講師
羽田 正

学習のねらい

西アジア・中東地域では、15世紀以来、オスマン帝国が広大な地域を支配していた。20世紀初め、第一次世界大戦に敗れたこの帝国の領域で起こった出来事のうち、次の3点を学ぶ。①オスマン帝国の滅亡と国民国家トルコの誕生、②アラブ人の独立運動と英仏によるアラブ地域の分割統治、③ヨーロッパ各地からパレスティナへのユダヤ教徒の大量移住とパレスティナ=イスラエル紛争の経緯。

- ・ <トルコ革命>
 - ・ ケマル・アタチュルク 西洋化 国民国家
- ・ <西アジア・中東の植民地化>
 - ・ サイクス・ピコ秘密協定 委任統治
- ・ <ユダヤ国家とパレスティナ問題>
 - ・ シオニズム パレスティナ難民

■ ■ ■ トルコ革命 ■ ■ ■

第一次世界大戦で敗れたオスマン帝国は、イギリスやフランスなどの連合軍によって分割占領される。オスマン帝国の軍人だったムスタファ・ケマルは、ムスリムの君主が多民族を統治するという構造を持つオスマン帝国にかわって、単一民族のトルコ人による国を新たに建て、自らがその政権を担うことを宣言した。多くの人々の熱烈な支持を受けたケマルは、ギリシア軍など占領軍の追い出しに成功すると、1923年にオスマン帝国のスルタンを廃し、国民国家トルコ共和国の樹立を宣言した。以後、彼はフランスをモデルとして、政教分離、男性のトルコ帽、女性の顔を覆うベールの禁止、アルファベット、太陽暦、メートル法の採用などの急速な西洋化政策を進めた。

■ ■ ■ 西アジア・中東の植民地化 ■ ■ ■

第一次世界大戦でオスマン帝国と戦っていたイギリスは、アラブ人の有力者であるメッカの支配者、フサインと交渉し、戦争に勝利したらアラブ人独立国家の樹立を手助けすると約束して、オスマン帝国への反乱を起こさせた。アラブ反乱軍はダマスカスを占領して臨時政府を樹立、戦争は連合国側の勝利で終わる。しかし、**サイクス・ピコ秘密協定**によってオスマン帝国の領土分割をフランス・ロシアと別に約束していたイギリスは、フサインの望むとおりのアラブ人独立国家建設に直ちには応じなかった。地中海東岸のアラブ人居住地域は分割され、イギリスとフランスの委任統治領となった。

■ ■ ■ ユダヤ国家とパレスティナ問題 ■ ■ ■

第一次世界大戦後、シオニズムと呼ばれるユダヤ人の独立国家建設運動への支援を約束したイギリスは、パレスティナを委任統治領とした。世界各地からその地に多くのユダヤ教徒が移住し、そこに住んでいたアラブ人との間で争いが生じた。第二次世界大戦後の1947年に、国連はパレスティナをユダヤ人とアラブ人の土地に分割する提案を可決し、イスラエルの建国を認めた。これに反発した周辺のアラブ諸国とイスラエルとの間の戦争は、イスラエルの勝利に終わった。その後、イスラエル領となった地域に住んでいて周辺諸国に逃れたアラブ人（パレスティナ難民）や周辺諸国などのアラブ系の人々とイスラエルの間で、簡単には解決できない複雑な対立と抗争が今日まで続いている。

考えてみよう 調べてみよう

- 現代の西アジア・中東の地図と100年前の20世紀初めの同じ場所の地図を比べ、どこがどのように変わっているのかを確認しよう。
- 帝国と国民国家は、それぞれどんな政治的、社会的特徴を持っているのか。理解しよう。
- エルサレムは、ユダヤ教徒、キリスト教徒、ムスリム（イスラーム教徒）にとって、それぞれなぜ重要な場所なのかを理解しよう。